

佳作

びびったよー！心からの私へのエール

新潟県 長岡市立青葉台小学校四年 宮下 月希

字を書くことは、自分の思いのままを、すなおに現せる。だから私は、作文や日記を書くのが好きです。そんな中、私は二年前作文でたくさん賞をいただきました。自分の思いが人へも伝わった事、読んでくれた人に共感してもらえた自分の思いが、うれしくてたまりませんでした。でも、自分の当時のお友達は、すごいね！や、おめでどうの言葉ではなく、賞状を切られたり、言葉で、

「こんな作文のどこが良いの？表彰なんてされなきゃ良いのに！」

など心が、おれることをたくさん言われ、生まれて初めて、悲鳴をあげて泣きました。

私は、何かを書く時、「良いな。参考にしたい」と思った事をノートに記入してためておくという事をしていきます。それは、私にとって宝物で家族です

ら見せずに書いていた物でした。でも、その事件をきっかけに、あまりのショックと立ち直れない心の中のきずが出来てしまい、学校に行くのも嫌になりました。先生方も、はげましてくれてはいたと思います。でも私も両親もスッキリする対応ではなく、教育委員会の先生へ相談に行きました。すると、学校より寄りそって私の気持ちを聞いてくれたこと。何よりうれしかったのは、私の賞のを知っていたその先生は、私に

「色々作文読んだよ、月希さんの気持ちを字にする力は、消さないでほしい。先生は、月希さんの事、先生としてでなく一人のおじさんとしてファンだから、ここでもう二度と書かないなんて言わないで、またぜひパワーをくれる作文を見せてね！がんばって!!」

と、言いながら、私へエールをくれました。お父さんやお母さんが、いくらはげましてくれても、友達の言葉のきずは大きすぎて、私にはたえられませんでした。学校の先生も、がんばってや、今度は二度とないようにするから、大丈夫だという言葉は、もりました。心がかもってなく感じてしまっ、何を言われても、言葉が素通りでした。でも、教育

委員会の先生はちがいました。先生としての言葉でない私への応えん。そして私の事をきちんとして、いっしゅんで、心をとかしてくれました。悩んでいた自分がうそだったように、帰りにスカッとした気持ちで、泣き顔が、ニコッと笑えたのを今も忘れられません。

人をうらやむ気持ちは、みんなあると思います。でも自分が言われて傷つく言葉は、言ってはいけません。私はまだ小さいので、大人の様なり切る、気持ちの切りかえも上手ではありません。だからこそ、言葉は大切で、言葉一つで、元気にもそしてかなしみも起きてしまいます。そんな、私の心を、初めて会ったのに、いっしゅんにして見て、私にやる気を復活させてくれた先生に感謝しかありません。

今、私に出来る事。また先生に作文を書いて読んでもらえる様に、努力すること。それが先生への恩返しだと思っています。

「がんばります！先生。」